

## 2024年12月16日（月）聖書朝礼

朗読： ルカによる福音 2章8節～14節

今週の聖句：「あなたがたのために救い主がお生まれになった」

英語科 WK 先生

おはようございます。クリスマスまであと9日となりました。

カトリックでは、待降節に馬小屋を飾ります。

マリアでも、受付玄関とチャペルに馬小屋が飾られています。

今日はイエス様がなぜ馬小屋で生まれたのかということについて考えてみたいと思います。

実は、聖書に馬小屋で生まれたという記述はないのですが、マリア様がイエス様を「飼い葉桶に寝かせた」ということと、「宿屋には泊まる場所がなかった」と書いてあるため、馬小屋で生まれたと言われていました。

飼い葉桶とは、牛や馬の餌であるまぐさを入れる餌箱のことです。

イエス様は神様が私たちのために送ってくださった救い主ですが、なぜそのような方が立派なお城ではなく、家畜小屋で生まれたのでしょうか？

イエス様がお生まれになったとき、大天使ガブリエルはこの救い主の誕生を、誰よりも一番最初に羊飼いたちに知らせに行きました。

羊飼いは当時の社会では立場が低く、貧しい暮らしをしていた、いわば世の中から見捨てられている人々でした。

大天使の知らせを受けた羊飼いが、救い主を一目見ようと駆けつけることができるためには、イエス様は立派なお城やお屋敷ではなく馬小屋で生まれる必要がありました。

神様は、悲しんでいる人、苦しんでいる人、寂しい思いをしている人、人々から忘れられている人を特に大切にされます。

私たちがクリスマスに福祉活動を行うのは、このクリスマスのスピリットを実践するためです。

クリスマスの集いでクリスマスの歌を歌うのも、聖劇をするのも、すべて、私たちがクリスマスの意味を深く知り、クリスマスのメッセージを伝えていくためです。

今、この瞬間も、戦争で命を失う人、戦争で親を亡くした子どもたち、戦火から逃れて暮らす人、飢餓に苦しんでいる人、病気に苦しんでいる人などが世界にはたくさんいます。

私たちのまわりにも、悲しい思い、つらい思い、寂しい思いをしている人がいるでしょう。それはあなたの家族、友達、クラスメートかもしれません。

神様が私たちひとりひとりをとても大切にしてくださっているというメッセージである心のともしびを、まわりの人たちにともすることができるクリスマスになりますように。